



思いどおりにならないと奇声をあげたり、気に入らないことがあると悪態をついたり、ひっくり返って大声をあげたり、ものを投げたり、母親をけったり、忙しいときに限って抱っこをせがんだり……書き出せばきりが無いほど、反抗期の子どもたちは母親を悩ませます。

自我が発達してきて、その一方、まだまだ言葉による完全な自己表現が不可能なこの時期、子育てはたしかに以前よりは難しくはなるのですが、それでも赤ちゃん時代に「泣けば抱っこ」「泣けばおっぱい」の甘やかささえしていなければ、子どもの「ききわけのなさ」はこれほどひどくはならないのです。

と怒鳴ってしまいます。

はたから見ると、こんな言葉はたいへんひんしゆくを買うかもしれないですが、いささかひんしゆくを買う言葉づかいであるとしても、彼女は結局のところ正しいのです。

子どもは自分でも気持ちの收拾がつかなくなると泣きわめいているのですが、こんなとき、子どもは心のどこかで、すごい雷を落とされることを望んでいるのです。怒鳴りつけられて大泣きするとしても、心のどこかでは自分を怒鳴った親を是認しているのです。

そうしてそれから数カ月経ったあと、この子は反抗期を乗り越えて、見違えるように「ききわけのいい子」になったのです。

### ○大切な二、三歳児への対応

二歳児の反抗期には、こんなふうになんでも「ヤダモン」になる子は少なくありません。「ヤダモン」という形でなくとも、子どもはさまざまなやり方で親を試そうとします。